

ジャカルタにおける RT の役割
— 集団アイデンティティ形成の観点から —

The Role of RT in Jakarta: From the Perspective of Collective Identity Formation

清池 祥野 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科)
KIYOIKE Yoshino (The Graduate School of Asian and African Area Studies)

本研究は住民組織である RT/RW が、地域内の住民の集団アイデンティティ形成に寄与することを明らかにする。

スハルト権威主義体制下に住民監視、上意下達組織として機能していた RT/RW (倉沢 2001) が、民主化後も存続した要因として、RT/RW を単位とした集団アイデンティティが社会に根付いていることが挙げられる。一方で、吉原 (2005) はスハルト体制以後、急激な都市化が進むジャカルタにて、地域コミュニティが凝集性とアイデンティティを保持できなくなっていることを指摘した。

そこで私は、どのように RT が住民の集団アイデンティティの維持形成に寄与するのかという問いを立て、フィールドワークによる調査を行った。また、これまで、ジャカルタでは、集合住宅におけるコミュニティの喪失が指摘されてきた点から、調査地を集合住宅の RT (東ジャカルタ市) に選定した。手法は 2023 年 5 月から 8 月に行った RT 長選挙・イドゥルアドハ (犠牲祭)・独立記念行事への参与観察と、住民へのインタビュー調査である。

本事例から RT があることにより集合住宅単位や RW 単位だけではなく、RT 単位で住民に集団アイデンティティが生まれていることが明らかになった。また RT 単位での凝集性は、RT 内で行われる行事で涵養されるとともに、集合住宅単位や RW 単位のようなより大きな単位で行われる行事によっても涵養されるものであると考えられる。

本事例はコミュニティの喪失が危惧される集合住宅においても RT/RW が集団アイデンティティの形成に寄与することを示すとともに、RT の集団アイデンティティ維持形成において行事が RT の内と外を意識する機会となっていることを示すものである。またこのことは今日まで RT/RW が維持されてきた要因について集団アイデンティティ形成の点から示唆を与えるものである。

(文献)

倉沢愛子. 2001. 『ジャカルタ路地裏フィールドノート』. 中央公論新社.

吉原直樹. 2005. 『アジア・メガシティと地域コミュニティの動態——ジャカルタの RT/RW を中心にして』. 御茶の水書房.